21世紀のブラジル音楽100選

- 20人が選んだ「後世に伝えたい」名盤

Motohiko Hamase

濱瀬元彦



プロフィール

ジャズ・ベーシスト、「濱瀬元彦 E.L.F. Ensemble+ 菊地成孔」で音楽の新しい形を追求している。著作も多く、近著は『チャーリー・パーカーの技法 インプロヴィゼーションの構造分析』(岩波書店)。

写真:須釜信一郎

選盤について

ミナス新世代の作品が二つ、サンパウロ高踏派が二つ、あとギンガという地勢図になった。いずれも基準は作品と歌唱の質の高さで、ここに挙げた作品はまさに今後に残していきたい、残ってもらいたいものだ。

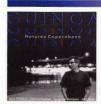


MÔNICA SALMASO Corpo de Baile

(Biscoito Fino) 2014年

1

91年に発表されたギンガのデビュー・アルバム はすべてアルジール・ブランキとの共作でギンガ のイメージはこれによって定着されてしまってい る。これに対しモニカ・サウマーゾのこの作品は、 70年代から40年間に渡ってギンガとコンビを組 んできたパウロ・セザール・ピネーリョとの共作 に焦点を定め、未発表のものも含め、アルバム化 している。だが彼女がすでに録音しているギン ガ、ピネーリョ共作の名曲「サシ」、「セニョリー ナ」は含まれておらず、彼女の表現者としての厳 格な側面を見る思いがする。ギンガという現代最 高の作曲家の曲に弦楽四重奏、木管、セミ・オー ケストラなど様々な編成による緻密なアレンジを 施し、その上で世界における最も優れた歌手であ るモニカ・サウマーゾが歌い上げたまさに極上の、 そして偉大な作品である。



GUINGA NOTURNO COPACABANA

(Velas) 2003 年

ギンガには愚作はなくどれも素晴らしいのだが、一作を選ぶということになるとパランスとアレンジ(パウロ・アラガゥン)の良さでこれになる。絶対にギンガ以外に聴くことのできない楽想の集まった傑作だ。



ANDRÉ MEHMARI CANTEIRO

(Inpartmaint) 2011 年

アンドレ・メマーリ作曲の歌曲を メマーリ自身の歌に加えモニカ・ サルマゾ、ジュサーラ・シルベイ ラ、ルシアーナ・アルヴェスなど 現代の素晴らしい歌手が結集して 歌った、まさに奇跡的に美しいア ルバム。

(5)



ALEXANDRE ANDRÉS MACAXEIRA FIELDS

(NRT) 2012年

1972 年のミルトン・ナシメント『クルービ・ダ・エスキーナ』の衝撃から丸 40 年後に出現した現代の『クルービ・ダ・エスキーナ』であり、そのように将来も語られることになるだろう記念碑的な作品。



KRISTOFF SILVA DERIVA

(Independente) 2013年

ミナス新世代の中心人物クリストフ・シルヴァの最新作。楽曲、アレンジ、ミキシング、歌唱の織りなす濃厚なリリシズムは全くこれまでにない方での高さと新しさであり、多くの方に是非、聴いていただきたいと思う。